

写真家・日向清次展

～ごあいさつ～

近年、携帯電話やスマートフォンの普及により、写真を撮るという行為が日常の一部になっている人もいないのではないのでしょうか。写真の加工がアプリで手軽にできる現代では、写真の役割は記録媒体としてよりもアート作品としての意味合いが強くなっているように感じられます。しかし、そのような加工技術が無かったころの写真におけるアートとは、どのような表現だったのでしょうか。私たちの郷土・熊谷では、写真の分野において長年活動してきた人物として日向清次が挙げられます。

日向清次（明治43年～平成6年）は、父・日向源左衛門、母・たいの三男として熊谷市仲町に生まれました。昭和12年日中戦争により召集され自動車隊へ配属された後、昭和15年に召集解除となりカメラを持って帰還。同年、熊谷白陽写真会（白陽会）へ入会します。

昭和20年熊谷空襲で写真機材をすべて焼失しながらも翌年から活動を再開し、昭和26年白陽会会長となりました。以降、県展・県北展・市美展にて運営委員や審査員として携わりながら数多くの作品を出品し、昭和43年熊谷市文化連合会会長に推挙され、昭和46年熊谷市文化功労者として表彰を受けました。また、昭和50年には熊谷市美術家協会会長、昭和55年には県北美術家協会会長に推挙されています。平成6年に84歳で亡くなるまで写真を撮り続け、翌年の県展・県北展・市美展では遺作が出品されました。

今回の展示では、県展や県北展に出品した作品を含む8点の風景写真を展示いたします。日向清次が記した写真に対する芸術観の一節に「写真は記録である。しかしアートでもなければならぬ。」という言葉があります。日向清次が自ら現像したモノクロ写真の味わいや、一瞬の中に収められた自然の美しさを楽しんでいただくとともに、写真家・日向清次の眼前に広がっていた光景はどのような色彩だったのか想像していただければ幸いです。



比企望見



道祖神

会期：令和6年12月3日（火）～令和7年3月2日（日）

[休館日：毎週月曜日（祝日は除く）、12/6、12/28～1/4、1/14、2/7、2/12～2/25]

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

時間：午前9時～午後5時

主催：熊谷市立熊谷図書館 住所：熊谷市桜木町二丁目33番地2 電話：048-525-4551